



ホワイトバード通信 2015年10月号

1. 最近の活動

1.1 報道機関との調整

情報漏洩のいくつかの事例の取扱いについて、報道機関と打合せをもっています。いずれの報道機関も国内最大手のところではあります。

1.2 セミナー出席

9月12日に仙台で、ITmedia 主催の「サイバー攻撃の実態とセキュリティ事件の裏側」に学ぶ、本当に有効な対策とは？」セミナーが開かれました。これに出席しました。

セミナー終了後、セキュリティベンダーの営業の方にホワイトバードの活動をご紹介申し上げ、情報交換等をしていただきました。

1.2 中国の動向調査

中国にあるファイル置き場の観察をしています。いわゆる闇サイトのようなものではなく、中国国内ではごく普通に一般の人々に使われている場所です。ほとんどは中国人向けのものです。しかし、時折日本にまつわる文書が見受けられ、しかもそれは元々の著作権者に断りなく置かれているような雰囲気があります。

有名なサイトなので、これに気がついているのは当ホワイトバードだけではありません。実際、国内の様々な組織からこうしたファイル置き場についての警告も出されています。JETRO など、警告リーフレットを作って配布しているところもあります。

1.3 中国ユーザーの動向調査

中国のサーバーは、当然中国の国民に向けたサービスのために稼働しています。このこと

から、中国のサーバー事情の研究をするのに関連して、中国のネットユーザーの動向や、好み、習慣などの調査研究をはじめることになりました。

中国 native な方をお願いして、情報収集を始めています。

1.4 匿名メールの動向調査

ホワイトボードは、セキュリティ自身というよりも、セキュリティインシデント後の結果として起きる情報漏洩の取扱いに集中しようとしています。ですので、どうやってセキュリティが破られたのかとか、どのような過程を経て情報が漏洩したかといった問題はホワイトボードにとっては副次的な事柄になります。ただし、これらの問題に興味がないわけではなく、積極的に調べているのはもちろんです。

セキュリティや漏洩過程を見る際のポイントは多岐多様にわたりますが、メールの取扱いはひとつの要素として入ってくるでしょう。ソーシャルハッキングに使われる主要なメディアですし、秘密を含んだメールの取扱いが漏洩の直接の原因になっていることもしばしばです。

こうした関わりから、匿名メールシステムについて調査をしました。身元を隠そうとするとき、まず必要なのはメールのヘッダの偽装ですが、それだけでは不十分です。メールのやりとりは、メールクライアント（アプリケーション）、OS、ウイルス検査システム、ファイアウォール、ISP など色々な所のログに残りやすいのです。メールの内容は秘密にしても、誰が誰と連絡を取っているかというメタ情報が漏れるのは攻撃側はいやなはずで

す。

そうしたことを避けようとする慎重で狡猾な攻撃側は、どのような手段でメールを送ろうとするでしょうか。こうした見地に立つと、IP アドレスの偽装など、アプリケーションより下位のネットワークシステムに対する偽装手段と組み合わせて攻撃をしてくるに違いないと想像できます。

2. スポーツと身体に関わる業務内容

ホワイトボードの業務には「体操、スポーツ、健康増進、身体芸術の研究と支援」が入っています。情報技術一般に関わるホワイトボードにとって、これは異色に感じられる方もいらっしゃるかもしれません。

ホワイトボードの発足の経緯から入りますと、初期の情報漏洩事例との関わりは、実は身体性にまつわるところから始まりました。かつて芸術を目指して身体操作の研究をしている際、志を同じくする人々とのインターネット上の情報交換の最中に、とある情報漏洩の

危険性を発見しました。そして研究するうち、実際に漏洩が起きていることが確認されました。現在研究している漏洩事例は、身体操作の研究や芸術研究なしには進むことがなかったのです。

これに加えて、情報技術の深いところの追求を支えるのは結局は身体や体力だろうという確信もあります。

以上

2015年10月1日